

西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）リュウコクダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）マキゼミナール
龍谷大学	経済学部	牧ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）クレイフィッシュ	フリガナ）タニワキコウスケ	5	無
CRAYFISH	谷脇光佑		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

研究テーマ（発表タイトル）
日本が抱えるゴミ問題 ～ドイツから学ぶリサイクル～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）
私たちは日本が抱える環境問題の内、ゴミ問題に焦点を当てることにした。ゴミ問題は長年に渡り日本の課題として様々なメディアで取り上げられています。日本人一人あたりのゴミ排出量は二位に大差をつけて世界一位となっている。そこで私たちは、ゴミ減量のために掲げられた4つのRの内、リサイクル（recycle）に着目し、リサイクルがゴミ減量に与える効果やリサイクルを行う目的などを明確にしたうえで、日本が効率的にリサイクルやゴミの処理が行えているのかを研究する。
2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）
ゴミを適切な形でリサイクルするには、適切な分別が行われていることが前提として考えられる。日本では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」があり、この第六条に「市町村が分別して収集するものとした一般廃棄物の種類及び分別の区分等を定めた一般廃棄物処理計画を定めること」とあり、ゴミ分別については国で統一したルールは設けられておらず、市町村の設備や財源に適した分別方法を設定しなければならない。そのため分別の種類や、回収方法や分別種類の数にも地域差がある。
3. 研究テーマの課題

アンケート調査で出た意見としては、「分別が細かくてわからない」、「引っ越しをしてから分別が変わった」、「分別していない人が多くて困っている」など地域によって違う分別方法についての意見が多く、当初私たちは国内で分別方法を統一する方向で進めようと考えていたが、ヒアリング調査の結果から難しいということが分かった。処理方法としては大きく分けて2パターンあり、都心では分別が大まかで、大型焼却炉を用いてゴミを処理する傾向が強く、反対に地方ではゴミの分別が細かくリサイクルを推進している傾向が強い。ヒアリング調査では、2パターン共お話を聞いたがどちらが良い、どちらが悪い、ではなく双方とも理にかなった処理方法を行っていたのだ。国内統一という響きは良いが、新たに施設を建てるための財源という面からみても土地の確保という面からみても難しいということがわかった。ヒアリング調査の結果どの企業も口を揃えて仰っていた課題は、住民のリサイクル意識の低さという点である。今の日本は、設備や技術等の進歩ばかりで、住民のリサイクル意識との間に大きなギャップが生まれており、このギャップが埋まらない限りは日本が持つ設備や技術を100%活かすことが出来ないのである。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

3の研究テーマ課題で述べたように、ゴミ処理施設の進歩と住民のリサイクル意識の低さというギャップを埋めていくためには、日本よりゴミ問題への対処が進み、世界で初めて環境法を定めたドイツの政策に倣っていけば、課題解決への糸口がつかめるのではないかと考えた。具体的な政策としては、Pfand（デポジット）とゴミ箱の増量である。Pfand（デポジット）とは、瓶や空き缶、ペットボトルなどに商品の値段とは別に容器代をかけ、中味がなくなった容器を返却することによって、容器代が返ってくるという制度である。この制度を用いることにより、容器返却をしないと自分が損をするので返却をしようという意識が高まると考える。また、この返却がしっかりと分別につながっていく。そして、ゴミ箱の増量という点だが、ドイツにはいたるところにゴミ箱が設置されており、ゴミの種類ごとに色分けがされている。日本もゴミ箱の量を増やし、種類によって色を決めることでポイ捨て防止や分別活動の促進へとつながっていくと思う。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

・3件への工場見学を実施し、ゴミの処理方法や清掃員の率直な意見を聞く事が出来た。

滋賀県甲賀市水口町松尾 502 番地の 18 株式会社 水口テクノス

滋賀県日野市石田 1 丁目 210 番地の 2 日野クリーンセンター

大阪府大阪市此花区北港白津 1-2-48 舞洲工場

・30代以上の年齢層を中心に、ゴミの分別についての意識や、改善方法について街頭アンケートを実施した。

6. 結果や今後の取り組み

解決策として、pfand（デポジット）とゴミ箱の増量という案を挙げたが、今のままではまだまだ現実味がない。この制度をより実現可能なものとしていくために、pfand（デポジット）であれば、容器の返金となる特典はどのようなものがあるのか。ゴミ箱であれば、その管理や回収は誰がするのかをより明確化し、細かい部分までを熟考した上で実行に移していきたい。

7. 参考文献

・杉本裕明 服部美佐子（2009）ゴミ分別の異常な社会—リサイクル社会の幻想

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさ

せていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑